

損益計算書

自 平成23年4月1日 単位：千円
至 平成24年3月31日

科 目	金 額
交流センター売上	44,312
レストラン売上	23,552
あばかん家売上	22,489
緑彩館売上	74,158
惣菜・加工売上	31,175
本店売上	15,004
【売上高合計】	210,690
【売上原価】	103,760
【売上総利益】	106,930
役員報酬	220
給与人件費	61,416
法定福利費	5,946
福利厚生費	538
【固定費計】	68,120
外注費	4,051
通信費	942
会議費	60
減価償却費	1,970
リース料	3,895
保険料	1,080
修繕費	4,174
水道光熱費	24,751
車輜費	2,282
消耗品費	3,861
租税公課	738
事務用品費	670
広告宣伝費	447
支払手数料	4,022
諸会費	71
新聞図書費	164
研修費	17
雑費	1,798
【変動費計】	54,993
【経費計】	123,113
【営業損益】	▲16,183
【営業外収益】	6,584
【営業外費用】	531
【経常損益】	▲10,130

売上高ではなく損益を重視し営業活動を行いました。九州新幹線の開業という明るい状況はあったものの、東日本大震災後の消費自粛ムードや世界的な不景気を考慮し、経費の削減を最優先に行いました。また、各部門の損益状況を正確に把握し不採算部門の廃止、縮小を目指しました。

不採算店舗であった緑彩館本店を10月末で閉鎖し損益の改善に努めました。下期より大牟田10日市、20日市への出店を行い将来への準備も行いました。

以上の結果、営業収入は全事業合計で210,690千円、前年差25,267千円(10.7%減)でした。売上総利益は106,930千円、前年差18,035千円(14.4%減)で、販売費及び一般管理費は123,113千円、前年より9,628千円削減しましたが、営業収入の落ち込みが大きく営業損失は16,183千円となりました。町からの指定管理料や地産地消の補助金などで営業外利益が6,053千円あり、経常損失は10,130千円と

なりました。各部門の利用人員、営業収入は以下のとおりです。

交流センターの利用人員は前年差27,829人減少の97,746人でした。営業収入も前年差6,434千円減収の44,312千円となりました。減少の要因として、東日本大震災後の日本中の消費自粛ムードが大きく影響したものと考えます。今後も、物産品販売の緑彩館の併設を強みに営業展開を図って参ります。

レストランの営業収入は前年差4,023千円減収の23,552千円となりました。今後も地元産品を使った独自メニューの開発や宴会など利用客の拡大を図っていきます。

あばかん家の利用人員は前年差2,831人減少の55,384人でした。営業収入も前年差5,432千円減収の22,489千円となりました。あばかん家の独特の雰囲気に合わせて対応を実施し顧客の繋ぎとめを図っていきたくと考えます。

緑彩館の利用人員は前年差2,644人減少の101,614人でした。営業収入も前年差18,877

貸借対照表

平成24年3月31日現在 単位：千円

資産の部		負債の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】	35,140	【流動負債】	14,284
現金および預金	25,821	買掛金	5,602
売掛金	1,484	未払金	4,215
商品	3,019	未払法人税等	127
貯蔵品	1,013	未払消費税等	1,285
立替金	119	預り金	244
未収入金	3,684	生産者預り金	2,811
【固定資産】	5,051		
(有形固定資産)	4,295		
建物	477	負債の部合計	14,284
建物付属設備	1,723	純資産の部	
構築物	283	科 目	金 額
機械・装置	35	資本金	67,000
車両・運搬具	95	【利益剰余金】	▲41,093
工具・器具・備品	1,682	利益準備金	1,500
(無形固定資産)	288	積立金	1,000
ソフトウェア	162	【繰越利益剰余金】	▲43,593
電話加入権	126	【その他利益剰余金】	▲42,593
(投資その他の資産)	468	【株主資本】	25,907
差入保証金	468	純資産の部合計	25,907
資産の部合計	40,191	負債・純資産の合計	40,191

千円減収の74,158千円となりました。減収の要因は緑彩館をはじめ交流センターへの入込客数の減少が大きな原因と考えます。緑彩館出荷協議会と連携を密にし、年間を通して豊富な商品確保に努めていきます。

惣菜・加工の営業収入は31,

175千円となりました。緑彩館本店の営業収入は15,004千円でしたが、不採算部門のため10月末で閉鎖しました。今後は、八つの神様弁当や宅配御膳の拡販により、営業収入を伸ばし、営業利益の確保に努めていきます。

損益計算書

自 平成23年4月1日 単位：千円
至 平成24年3月31日

科 目	金 額
物産売上高	171,783
実演売上高	29,273
温泉売上高	14,047
カヌーその他売上	8,054
売 上 計	223,157
売 上 原 価	141,655
売 上 総 利 益	81,502
役員報酬	2,400
給与手当	33,028
雑 給	2,574
賞 与	2,420
法定福利費	3,717
厚生福利費	343
固定費計	44,482
交通費	39
通信費	442
交際費	278
原価償却費	3,839
賃借料	603
保険料	789
修繕費	1,175
水道光熱費	19,710
燃料費	445
消耗品費	2,696
租税公課	248
運賃	1,275
事務用品費	157
広告宣伝費	923
支払手数料	1,800
諸会費	248
維持管理費	2,158
繰延資産償却費	252
雑費その他	611
変動費計	37,688
経費計	82,170
営業利益	▲668
営業外収入	5,180
営業外費用	
経常利益	4,512
特別損失	▲584
税引前純利益	3,928
法人・住民・事業税	1,176
当期純利益	2,752

第2期指定管理者制度適用の最終年にあたり、発電機の償却が終了し恒常的な黒字化体質の構築が見込まれることから、職員に目標達成意識と営業活動継続意識の強化を基礎に、ロマン館本来の目的である地域になが貢献できるか検証すべく努力をしました。

施策としては、実演販売部門の販売強化策として、豆腐の農協販売店による拡販、自然食販売会社との販売提携や、物産部門の主たる施策である、外販に係る不採算販売拠点の整理を行い、回あたりの生産性の向上を図りました。

総売上の傾向につきましては、東日本大震災以降の消費マインドの低迷や、同業他社との競合もありますが、天候不順により、売上を上げるべき時期にあげられなかつ

た事と、増販に係る思い切った施策が出来なかつた事により、前年比95.7%、10,136千円の大幅な減収に成りました。

一方コスト面におきましては、発電機の償却終了による賃借料の大幅な減少や、原油高による光熱費増加分を補うため諸経費の削減や施設維持管理費、修繕費の自助努力による抑制を行なった結果2,087千円のコスト削減を行いました。

当社としましては、回復が見えない厳しい営業環境に対応すべく、更なる外販や日常営業活動の強化と経費の見直しを行いました結果、年度末におきまして、経常損益で4,512千円の利益を確保しました。

貸借対照表

平成24年3月31日現在 単位：千円

資産の部		負債の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】	49,249	【流動負債】	20,367
現金	2,404	買掛金	1,039
預金	42,080	未払金	15,047
売掛金	819	未払法人税等	595
商品	398	預り金	479
貯蔵品	1,546	未払消費税	1,606
仮払金	39	商品券	17
未収入金	1,963	1年返済リース債務	1,584
【固定資産】	18,112	【固定負債】	8,789
(有形固定資産)	17,776	長期預り保証金	4,982
建物	8,658	返済リース債務	3,807
建物付属設備	634		
車両運搬具	1,207	負債合計	29,156
工具器具備品	175		
リース資産	7,102	純資産の部	
(投資その他の資産)	336	【株主資本】	38,528
差入保証金	300	資本金	65,000
リサイクル預託金	36	(利益剰余金)	26,472
【繰延資産】	323	その他利益剰余金	26,472
フランチャイズ加入金	165	繰越利益剰余金	26,472
下水道負担金	158	純資産合計	38,528
資産合計	67,684	負債・純資産合計	67,584